

1章

平塚の都市づくり

1 都市づくりの基本理念

平塚の20年後の将来に向けて、住みやすく、生活の豊かさが感じられ、個性の際立つ魅力ある都市づくりを推進するため、都市づくりの基本理念を、市民とともに“住みやすいまちづくり”、“自然を活かしたまちづくり”、“元気あるまちづくり”とします。



2 都市づくりの目標

平塚の将来は、都市づくりの基本理念を市民と共有することから始まります。

今までの歴史と都市の成り立ちなどの経緯を十分に認識しながら、これらを次の世代に着実に継承し、新たな都市を創造していくために、市民だれもが理解し、共鳴できる都市づくりの目標を掲げます。

- (1) 都市基盤の整備により、居住環境と防災性の向上を図り、安全で人にやさしい都市づくりを進めます。
- (2) 自然環境と歴史資源など平塚固有の資源を活かし、環境と共生する個性ある都市づくりを進めます。
- (3) 新たな機能の誘導により、快適で利便性の高い都市づくりを進めます。
- (4) 広域連携と交流により、元気ある都市づくりを進めます。

将来都市像

個性が花開く、ふれあい都市・平塚

3 将来都市構造

(1) 都市拠点の形成

商業・業務・交通及び文化・交流などの都市機能を、地域特性の活用により複合的に集約し、個性と活力を増進する地域を「拠点」として位置付けます。

- 都市拠点** ●●●●●●●●●● ● 商業・業務・交通と文化・行政などの都市機能が集積する平塚駅周辺と、市役所周辺や見附台周辺を結んだ区域周辺を都市拠点とし、商業環境の充実や多様な都市機能の高度な集積を図ります。
- ツインシティ拠点** ●●●●● ● JR東海道新幹線新駅ツインシティ²構想を受け、平塚市北部の新たな玄関口として、環境と共生した新たな拠点の形成を図ります。
- 緑とのふれあい拠点** ●●● ● ゆとりとやすらぎを感じる緑の環境を、湘南平や鷹取山周辺から西へ連なる丘陵及び総合公園などに充実させ、文化、研究、交流などの都市機能と調和するふれあいの場の整備による地域の個性化を図ります。
- 水辺とのふれあい拠点** ●●● ● 自然資源としての平塚海岸や相模川などの水辺の空間は、その環境を保全するとともに、自然とふれあう場として整備を進め、スポーツやレジャー・レクリエーションなど多様な交流を育む都市機能の集積を図ります。
- 大学などとの交流拠点** ●●● ● 東海大学、神奈川大学などとの連携による学術、文化環境の形成と小田急線東海大学前駅に近接する真田・北金目地域の都市基盤整備を進め、商業、交流などの都市機能の集積を図ります。

(2) 都市軸の形成

都市活動に必要な情報、交通などのネットワークによる連携と交流を通して、広域的なつながりや都市間のつながりを活性化する都市空間を「軸」として位置付けます。特に、都市を象徴する魅力ある都市空間を「シンボル軸」と位置付けます。

- シンボル軸** ●●●●●●●● ● 都市拠点を中心に、南は平塚海岸の水辺とのふれあい拠点と結び、北へは総合公園へ至る南北の都市空間をシンボル軸とし、景観に配慮した美しいまちづくりを進めます。
- 広域連携軸** ●●●●●●●● ● 近隣都市との連携や交流を促進するため、道路や鉄道などの機能充実を図る広域と連携する軸を、放射状及び東西方向のバランスに配慮し、ネットワークを形成します。
 - 放射状の広域連携軸は、ツインシティ拠点を經由して厚木方面、伊勢原市の拠点である小田急線伊勢原駅方面、大学などとの交流拠点を經由して小田急線東海大学前駅方面、湘南丘陵の緑とのふれあい拠点を經由しての東名高速道路秦野中井インターチェンジ方面とします。東西方向は、茅ヶ崎市から大磯町方面とします。

*2 ツインシティ： 新幹線新駅を中心とした相模川をはさむ両側の一体的なまちづくりの呼称。

(3) 基本的な土地利用の方向性

- 土地利用** ●●●●●
- ・平塚駅周辺を中心とする都市拠点周辺を「商業・業務系市街地」とします。
 - ・JR東海道新幹線より南側の区域や新たな市街地の形成が進んでいる区域などの市街化区域を「住居系市街地」とします。
 - ・相模川沿岸の地域や総合公園北側の東浅間大島線沿道などを「工業・産業系市街地」とします。
 - ・JR東海道新幹線より北側の集落地や優良な農地などの市街化調整区域を「集落地・農地」とします。
- 自然環境** ●●●●●
- ・平塚海岸の海辺や相模川、金目川水系の豊かな自然は、水辺の環境を形成する平塚の貴重な自然資源であり、その自然環境と調和する水辺環境のゾーンとします。
 - ・高麗山から湘南平周辺、鷹取山から西へと連なる丘陵の豊かな自然は、平塚の自然環境を形成する緑の環境であり、その自然環境と調和する緑の環境のゾーンとします。

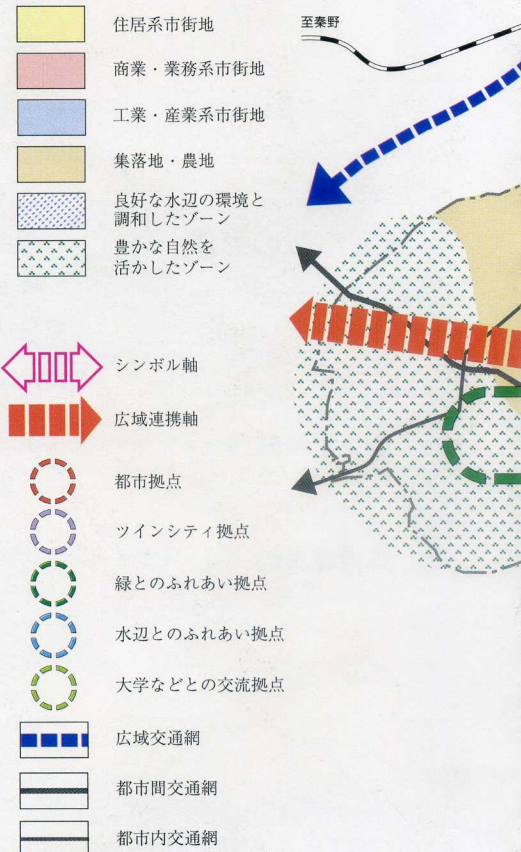
(4) 骨格的な交通施設網

- 道路網** ●●●●●
- 広域交通網（自動車専用道路）**
- ・広域交通へスムーズに対応するため、国道271号（小田原厚木道路）に加え、新湘南国道の整備による首都圏方面などへ円滑に連絡する東西の交通網を形成します。
- 都市間交通網**
- ・国道1号や国道134号の整備、及び湘南新道の整備による東西方面の近隣都市間交通の円滑化を図ります。また、市北部では、伊勢原藤沢線の充実やJR東海道新幹線新駅への交通アクセスの向上により、相模川をはさむ交通の円滑化を図ります。
 - ・小田急沿線都市間を連絡する交通を強化するため、厚木方面は国道129号に加え東浅間大島線、伊勢原方面は平塚伊勢原線、秦野方面は平塚海岸秦野線の整備や八幡神社土屋線から(仮)湘南丘陵幹線により対応します。
- 都市内交通網**
- ・市内各地域の拠点へのアクセスと都市内移動を容易にするための主要な幹線道路の整備、駅前広場の整備及び駐車場整備などによる交通結節機能の充実を図ります。

- 公共交通網** ●●●●●
- ・JR東海道本線は、東京方面及び近隣都市間を連絡する市民生活にとって重要な交通施設であり、ライナー系列車のホームの早期実現など鉄道輸送の強化を図ります。
 - ・生活に密着したバス輸送機能の充実や、新交通システムの検討など、公共輸送力の強化を図ります。

将来都市構造図

凡例



4 将来人口

将来人口は、高齢化社会の到来や少子化が進展することが予測されるなかで、地域経済や社会活動を支え、安定した都市成長と活力を維持するため、定住人口の増加や安定化に努めます。また、近隣都市との連携や交流人口による都市の活性化により持続的な成長を目指します。

都市マスタープランにおいては、計画的な市街地の整備による人口増加を取り込んだ、持続的な成長による20年後の将来人口は、おおよそ29万人と想定します。

